



学校だより

墨田区立第三吾孺小学校

校長 川中子登志雄

令和5年6月1日

6月号



「児童の主体性の育成」 子供が「主語」になる学び

(大人は)子供に任せる

子供が決める、子供がやる、子供が悩む、子供が喜ぶ

校長 川中子登志雄



4年生図工 色づけの技法研究

子供の主体性の育成に取り組み始めてふた月が経過しました。お子さんの様子を見て、まだ顕著な変化は見られないとお感じの方が多いことでしょう。子供が「主語」になる姿とはどのようなものなのか。これまでの教育観を180度ひっくり返すような改革ですので、子供たちにとっても教職員にとっても、容易なことではありません。長い目で見守りいただければ幸いです。

新しい年度が始まり、連休明けから、私は副校長とともに、全教職員と今年度の目標について面談を行い、現在は、各教員の授業を見にいっています。その中で、驚くことに、私たちが目指す「児童の主体性の育成」がすでに完成に近づいている学級がありました。その学級の担任に話を聞くと、教師が子供の力を信じ、子供に積極的に任せている姿が浮かび上がってきました。これは、「指導力」の問題ではなく、教師としての「姿勢」の問題だな、と感じました。

その学級では、4月当初はクラス替え直後で主体的に動く子供は少なかったそうですが、このひと月あまりで例えば、日常的にこのような様子が見られるようになっていきます。

その学級では、4月当初はクラス替え直後で主体的に動く子供は少なかったそうですが、このひと月あまりで例えば、日常的にこのような様子が見られるようになっていきます。

- ・先生が少し遅れて教室に行く(この教員は時差勤務をしています)と、すでに全員が授業用意を終え、子供たちだけで学習を始めている。
- ・漢字の学習は自分たちが代わる代わる先生になって教えたい、と言って授業を進めている。(教師はそれを傍らで見守る。)
- ・先日の体育朝会の時には、自分たちの判断で、1時間目の体育の授業に備えて体操着に着替えた後、全校で行っていた大縄とびを、先生抜きで始めていた。

その担任に、どうやってそういうクラスを作ったのかと尋ねると、感動的なエピソードを聞かせてくれました。「私のクラスでは、給食の後片付けを終わった人から順番にやっています。あるとき早めに終わった子が、他の人が後片付けがしやすいように食器のかごやワゴンの整理をしてくれていました。それで、私が『ありがとう!』と声をかけ、みんなに『これって、本当に素敵なことだよ。『有り難い』ことだよ。』と言ったら、

みんながその子たちに『ありがとう！』と言い出したんです。それから、何かあるとみんなが、『ありがとう！』って言い合うようになりました。」それから、クラスが変わったそうです。

「ありがとう」は魔法のことばです。褒めるよりも、感謝することのほうが、子供の「**自己有用感**（「私は誰かの役に立っている！」という気持ち）」を格段に高めます。その学級では、子供たちが安心して生活ができるようになりました。そのせいで、これまで落ち着きのなかった子も、引っ込み思案だった子も、安心していられるようになり、学級全体があたたかな雰囲気になっています。

子供たちが失敗しても大丈夫という安心感の中、自信をもっていろいろなことができるようになり、先生が任せてくれるので、自分たちでどんどん主体的に動けるようになっていきます。そして、自分たちが決めて、行動できるようになり、「自ら学び、考え、行動する人」「思いやりをもち、共に生きる人」に育っているのです。

また、自分自身が真剣に悩み努力した結果の喜びはひとしおで、その達成感**は誰かに言われて行動したときとは比べものにならないくらい豊かなものになります。**こうして、子供たちの「**自己肯定感**（「自分が好き、私ってイイ感じ！」という気持ち）」が高まるのです。

この先生は、4月当初に設定した学力向上の目標が、このひと月でほぼ達成してしまったので、目標値をもう少し高くしたいと話していました。**安心して自分の主体性を発揮できる学級では、当然のことながら学力もアップするわけです。**また、この学級は担任の力で子供たちを従わせているのではなく、子供たちが主体的に前向きな生活をしているため、担任以外の教員の授業でもとても落ち着いて頑張っているという話も聞いています。

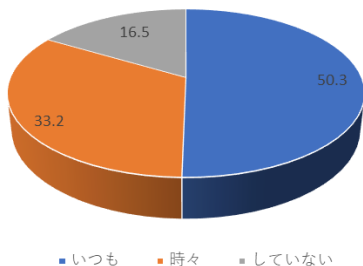
私は、現在本校が着手し始めた改革が成功したあかつきには、これまで学校が抱えてきた様々な課題（学力向上、生活指導、いじめ、不登校、インクルーシブ教育、教員の働き方改革等）は、一度に解決するのではないかと期待しています。まだまだ手探り状態ではありますが、このようなクラスが一日も早く増えていくよう、最善をつくしてまいります。

COVID-19 5類降格以降のマスク着用状況について

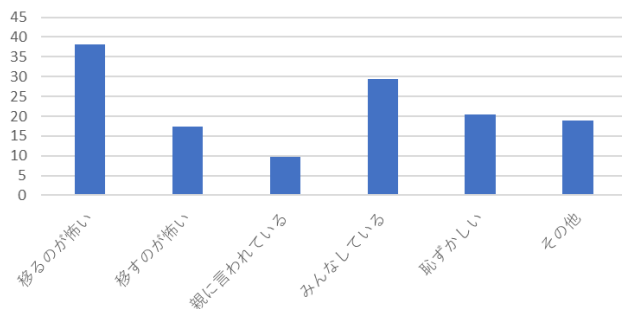
5月8日以降、感染症法上の位置づけが季節性のインフルエンザと同等の5類に変更となりました。療養や感染対策が個人の判断に委ねられる新たな日常が始まっています。実際、5月に入ってからは、インフルエンザ、コロナウイルス感染症ともに数名で、感染状況は落ち着いています。

マスクの着用については、個人の判断に任せているところですが、連休明けにとったアンケートの結果では、グラフの通り、まだ8割強の児童がマスクを着用している状況です。その理由は感染恐怖がトップですが、「みんながしてるから」「恥ずかしいから」が続いています。本校は「マスクの必要のない学校」になることを目指しています。みんなが主体的に、笑顔を見て生活のできる学校にしたいと考えています。特に、これからの季節には、熱中症のほうが数段危険ですので注意が必要です。ご家庭でもよく話し合ってみてください。

5/8以降もマスクをしていますか？ (%)



マスクをしている理由 (値は%、複数回答可)



〈お知らせ〉

水泳指導が始まります！

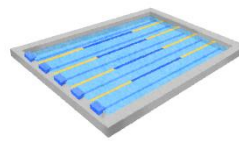
体育的行事部

6月19日より、水泳指導が始まります。今年度も、熱中症対策を行いながら学年ごとに分かれて指導を行う予定です。先日、お手紙を各ご家庭に配布いたしましたので、水泳指導の開始前には再度ご確認をお願い致します。HP（保護者専用ページ）からもご覧いただけます。

◆忘れ物や、プールカードに不備がある場合、水泳指導に参加することができません。プールカードは、必ず保護者の方が記入していただけますようお願い致します。

◆安全管理上、水着等の持ち物の型や名前の記入等様々なお願いをさせていただきます。学年便りや学校からのお知らせをご覧いただき、ご準備をお願い致します。

◆今年度も夏休み期間の水泳指導を予定しております。後日お配りする参加申込書を提出したお子さんが参加することができます。詳細につきましては、改めてご連絡致します。



〈学年・行事の様子〉

消防写生会

図工担当

4月24日、毎年恒例の消防写生会が行われました。今年度は例年と違い3年生での実施となり、クレヨンだけでなく絵の具も駆使した中学年らしい迫力ある作品がそろいました。普段間近で見ることのできない消防車を前に、興味津々な子供たち。消防署の方々からも貴重なお話も伺うことができる貴重な体験となりました。



3年生 遠足

3年担任

5月2日、汗ばむほどのよいお天気の下、亀戸中央公園に行ってきました。自由に草原を駆け回ったり、「だるまさんがころんだ」をしたり、元気いっぱい体を動かしました。そして、何より楽しみにしていたのはお弁当とおやつの時間！1時間以上前からレジャーシートを敷き、待ちきれない様子でした。早朝からのお弁当のご用意、ありがとうございました。

